

わが国初、酪農家向けの政策・技術情報を迅速に伝える会員情報

(株)酪農乳業速報

# 酪農スピードNEWS

東京都千代田区神田和泉町  
1番地13-12 ファベルハウス  
TEL:03-3864-3691  
FAX:03-3864-3695

平成30年10月16日(火曜日)・第1601号

記事の無断転載不可

都府県版

## ◎ ユーロティア2018、テーマは「スマート酪農」

DLG（ドイツ農業協会）は11月13～16日の4日間、ドイツ・ハノーファーの国際見本市で、世界最大の酪農・畜産機械展「EuroTier（ユーロティア）2018」を開催する。テーマは「アニマル・デジタル・ファームिंग」。日本では「スマート酪農」と呼ばれる分野で、欧州を中心とした世界各国のメーカーが、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）、センシング技術などを駆使した新製品や最先端技術を披露する（北海道版と共通掲載）。

ユーロティアは2年ごとに開催されており、今回で13回目。26万㎡を超す広大な展示スペースに、世界62カ国から2256社が出展する。酪農機械メーカーは、デラバル（スウェーデン）、GEA（ドイツ）、レリー（オランダ）、SAC（デンマーク）、デイリーマスター（アイルランド）、ボーマチック（米国）などがブースを構える。世界の名だたるトラクターや作業機、バイオガスプラントも所狭しと展示される。日本からは、ワイピーテックと日本ニュートリションが出展する。

今回のユーロティアは「アニマル・デジタル・ファームING」がテーマ。乳牛の行動から疾病や発情の兆候を自動検知する機器や、クラウド技術を用いた牛群・経営管理ソフトウェアなど、大幅な省力化や生産性の向上に向け、最新のデジタル技術を駆使した機械・技術がメーカー各社から紹介される。専門家やメーカーの講演、パネルディスカッションなども連日開かれる。

欧州の酪農は日本同様、人手不足が深刻で農地面積も限られるため、省力化や生産性の向上が大きな課題で、メーカー間の競争が激しい。世界を席卷する搾乳ロボットに続き、スマート酪農も世界をリードしているのが実態だ。

ユーロティアの問い合わせは、DLG日本国内サービス窓口（合同会

社アグサプライ)の上村孝和氏 (Tel 0153・74・9027、  
expo@hdp-farm.com) まで。

### ◎ 脱脂粉乳の一般輸入、需給改善で6割強減少

指定乳製品の一般輸入量が今年度に入り大幅に減少している。4～8月までの累計は413トンを、前年を46・7%下回った。中でも脱脂粉乳は62・6%減の278トンまで落ち込んでいる。脱粉は昨年度、国産物の不足分を補填するため乳製品ユーザーが積極的な買い付けを行ったことから国内需給が改善した結果とみられる。

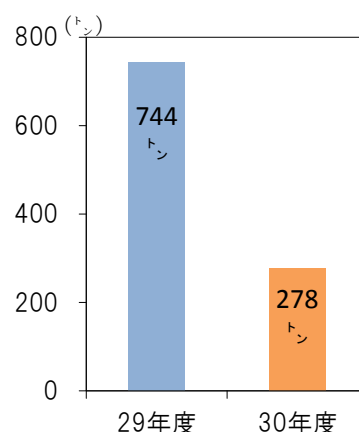
一般輸入は乳製品の輸入形態の一つ。国が年間輸入枠を毎年決めて入札を行う国家貿易に比べ関税が割高なことから、特別な商品を除き利用は限られている。ただ、平成29年度の一般輸入量は2960トンで、前年の1・7倍に激増。その8割を脱粉が占め、同製品は2・3倍の2461トンに達した。

29年度に一般輸入の脱粉が増えたのは、国内の生乳生産が落ち込んだため。主な仕向け先の発酵乳や乳酸菌飲料の消費が増加する中、国産物の供給不安を払拭するために飲料・乳業メーカーが海外の脱粉を積極的に買い付けた。国

家貿易の年間輸入枠（前年比約8倍の3万4000トン）も全て消化するなど需要が過熱した。

今年度はこれら輸入手当分の国内ストックが潤沢なことから、需給に落ち着きが戻ってきている。輸入商社は「国内の脱粉在庫量は6万トンを超える水準を維持しており、昨年と比べ逼迫感は薄い。最終製品の消費動向にもよるが、需給は当面落ち着いて推移するだろう」と見ている。

脱脂粉乳の一般輸入量  
(4～8月の累計)



資料:農畜産業振興機構

### ◎ 自民農林部会長に野村哲郎参議院議員を再任

自民党は10月15日の臨時総務会で、農林部会長に野村哲郎氏(参、鹿兒島)を再任した。

以上